

表 6-12-11 鳥類の季節別の出現状況

渡り区分	種名	秋季	冬季	春季	初夏季
留鳥	アオサギ				
	カルガモ				
	オオタカ				
	ノスリ				
	コジュケイ				
	キジ				
	ヤマドリ				
	キジバト				
	カワセミ				
	アオゲラ				
	アカゲラ				
	コゲラ				
	ヒバリ				
	キセキレイ				
	ハクセキレイ				
	セグロセキレイ				
	ヒヨドリ				
	モズ				
	ミンサザイ				
	ガビチョウ				
	ウグイス				
	エナガ				
	ヤマガラ				
	シジュウカラ				
	メジロ				
	ホオジロ				
	カワラヒワ				
	イカル				
	スズメ				
	ムクドリ				
	カケス				
	オナガ				
ハシボソガラス					
ハシブトガラス					
夏鳥	ツツドリ				
	ホトギス				
	ツバメ				
	イワツバメ				
	ビンズイ				
	サンショウクイ				
	オオヨシキリ				
	キビタキ				
	サンコウチョウ				
	冬鳥	アリスイ			
ジョウビタキ					
シロハラ					
ツグミ					
カシラダカ					
ベニマシコ					
シメ					
漂鳥	アオジ				
合計		23種 197個体	34種 543個体	31種 228個体	26種 221個体
	51羽以上	31~50羽	21~30羽		
	11~20羽	6~10羽	1~5羽		

ウ) 環境別の出現状況

季節別の出現状況を渡り区分および種ごとに、確認個体数によって6段階（1～5羽、6～10羽、11～20羽、21～30羽、31～50羽、51羽以上）に区分し、帯グラフ状にまとめた。これを表6-12-12に示す。

(ア) 多様な環境を利用する種

多様な環境を利用する種としては、キジバト、ヒヨドリ、モズなど14種が挙げられる。このうち、ウグイス、メジロ、カワラヒワは樹林地で比較的多く出現し、キジバト、スズメ、シメなどは耕作地、水田など開けた環境で比較的多く出現している。なお、ハシブトガラスは多様な環境でほぼ同程度の出現状況であった。

(イ) 樹林域を主に利用する種

樹林域を主に利用する種としては、ガビチョウ、コジュケイ、エナガなど20種が挙げられる。最も確認個体数が多かったのはガビチョウで106個体であった。

(ウ) 草地を主に利用する種

草地を主に利用する種としては、ホオジロ、カシラダカ、ベニマシコなど7種が挙げられる。最も確認個体数が多かったのはホオジロで118個体であった。ついでカシラダカが96個体確認された。

(エ) 水辺を主に利用する種

水辺を主に利用する種としては、セグロセキレイ、カルガモなど6種が挙げられる。最も確認個体数が多かったのはセグロセキレイで17個体であった。調査範囲に水辺が少ないことから、確認個体数は総じて少なかった。

(オ) 広域を主に利用する種

猛禽類やツバメなど上空を飛翔する種が広域を利用する種として確認された。ただし、ツバメは視界が開けた水田で最も多く確認されている。

表 6-12-12 鳥類の環境別の出現状況

タイプ区分	種名	広葉樹林	竹林	乾性草地	耕作地	水田	開放水面	個体数総計
多様な環境を利用する種	キジバト							28
	ヒヨドリ							120
	モズ							19
	ジョウビタキ							2
	ツグミ							10
	ウグイス							46
	シジュウカラ							24
	メジロ							65
	カワラヒワ							50
	シメ							28
	スズメ							155
	ムクドリ							9
	ハシボソガラス							14
	ハシブトガラス							70
樹林域を主に利用する種	コジュケイ							23
	ヤマドリ							2
	ツツドリ							2
	ホトギス							1
	アリスイ							2
	アオゲラ							4
	アカゲラ							2
	コゲラ							13
	ビンズイ							1
	サンショウクイ							1
	ミンサザイ							4
	シロハラ							5
	ガビチョウ							106
	キビタキ							2
	サンコウチョウ							1
	エナガ							26
	ヤマガラ							4
イカル							17	
カケス							1	
オナガ							2	
草地を主に利用する種	キジ							4
	ヒバリ							1
	オオヨシキリ							1
	ホオジロ							118
	アオジ							9
	カシラダカ							96
	ベニマシコ							6
水辺を主に利用する種	アオサギ							1
	カルガモ							11
	カワセミ							4
	キセキレイ							6
	ハクセキレイ							1
	セグロセキレイ							17
広域(主に上空)を利用する種	オオタカ							2
	ノスリ							4
	ツバメ							44
	イワツバメ							5
合計		31種 278個体	15種 104個体	24種 302個体	30種 316個体	20種 183個体	3種 6個体	51種 1189個体

51羽以上      31~50羽      21~30羽  
11~20羽      6~10羽      1~5羽

## ウ 任意調査結果

任意調査の結果を集計し、確認状況を以下に整理した。季節別の確認状況を表 6-12-13 に示す。

4 季の調査で合計 65 種が確認された。そのうち任意調査でのみ確認された種は、コサギ、チョウゲンボウ、コチドリ、フクロウ、コシアカツバメ、ルリビタキ、ノビタキ、トラツグミ、メボソムシクイ、センダイムシクイ、マヒワの 11 種であった。

調査範囲北西側では樹林地でマヒワとトラツグミが、水田帯では上空を飛翔するコサギ、チョウゲンボウ、コシアカツバメが確認された。調査範囲北側では水田でコチドリ、水路の草地でノビタキが確認された。調査範囲南側の樹林ではメボソムシクイとセンダイムシクイが、対象事業実施区域南東側の谷部樹林においてはルリビタキが確認された。また、調査範囲南端のアラカシにおいてミゾゴイの営巣が確認され、巣上に成鳥 1 羽、雛 4 羽が確認された。

また、フクロウについては夜間調査を行い、対象事業実施区域東側の果樹園と南東側樹林で鳴き声が確認された。

表 6-12-13 鳥類の任意調査結果

番号	種名	H19.10	H20.1	H20.5	H20.6	H20.10	H21.1	番号	種名	H19.10	H20.1	H20.5	H20.6	H20.10	H21.1
1	カワウ			●				34	ヒヨドリ	●				●	●
2	ミゾゴイ				●			35	モズ	●				●	●
3	ゴイサギ	●						36	ミンサザイ		●				
4	ダイサギ					●		37	ルリビタキ		●				●
5	コサギ						●	38	ジョウビタキ					●	●
6	アオサギ	●		●	●	●	●	39	ノビタキ	●					
7	カルガモ		●	●			●	40	トラツグミ						●
8	トビ	●				●	●	41	シロハラ		●				●
9	オオタカ		●					42	ツグミ						●
10	ノスリ	●				●	●	43	ガビチョウ	●				●	●
11	チョウゲンボウ					●		44	ウグイス	●				●	●
12	コジュケイ	●				●	●	45	メボソムシクイ			●			
13	キジ	●			●		●	46	センダイムシクイ			●			
14	ヤマドリ	●	●					47	キビタキ	●		●			
15	コチドリ				●			48	サンコウチョウ	●					
16	ドバト	●				●		49	エナガ	●			●		●
17	キジバト	●				●	●	50	ヤマガラ	●				●	
18	アオバト			●				51	シジュウカラ	●				●	●
19	ツツドリ			●				52	メジロ	●				●	●
20	ホトトギス				●			53	ホオジロ	●				●	●
21	フクロウ	●			●			54	カシラダカ						●
22	アマツバメ			●				55	アオジ		●				●
23	カワセミ			●		●	●	56	カララヒワ	●					●
24	アリスイ					●		57	マヒワ						●
25	アオグラ	●			●	●	●	58	ベニマシコ						●
26	アカグラ	●				●		59	イカル	●		●		●	●
27	コグラ	●				●	●	60	シメ			●		●	●
28	ツバメ	●						61	スズメ	●				●	●
29	コシアカツバメ	●						62	ムクドリ					●	
30	イワツバメ	●				●		63	カケス	●		●		●	
31	キセキレイ	●			●	●	●	64	ハシボソガラス	●				●	●
32	ハクセキレイ	●				●	●	65	ハシブトガラス	●				●	
33	セグロセキレイ	●				●	●	合計	65種	37種	7種	13種	9種	33種	36種

### ③ 両生類・爬虫類

調査の結果、調査範囲から1目4科8種の爬虫類、1目4科7種の両生類が確認された。このうち、爬虫類については対象事業実施区域内から1目4科8種全てが、対象事業実施区域外からは1目3科6種が確認された。両生類については対象事業実施区域内外ともに1目4科6種が確認された。確認種目録及び確認状況を表6-12-14に示す。季節別の確認位置を図6-12-4(1)～(4)に示す。

調査範囲の爬虫類相は、耕作地周辺に生息するトカゲ、カナヘビ、耕作地及び樹林周辺に生息し主にネズミ類を捕食するジムグリ、アオダイショウ、水田及び湿地周辺に生息し主にカエル類や小魚を捕食するヒバカリ、ヤマカガシ、樹林周辺に生息し主にミミズを捕食するタカチホヘビなど多様な種類が確認されており、当該調査地域における環境の多様性を示している。

また両生類相についても水田及び湿地周辺に生息するアマガエル、シュレーゲルアオガエル、樹林周辺に生息し水田及び湿地で産卵するアズマヒキガエル、ヤマアカガエル、モリアオガエル、溪流に生息するカジカガエル、沢沿いの樹林部に生息するタゴガエルなど多様な種類が確認されている。特にヤマアカガエルについては成体及び産卵場所ともに調査範囲内の広範囲で多数確認されており当該調査地の環境を示す代表的な種であると考えられる。

表 6-12-14 両生類・爬虫類の確認状況

	No	目	科	種	対象事業 実施区域		確認状況				備考 (確認環境、確認頻度等)
					内	外	秋季	早春季	春季	夏季	
爬虫類	1	トカゲ目	トカゲ科	トカゲ	●	●	目撃	目撃	目撃	目撃	主に耕作地や林縁部で成体及び幼体を確認。
	2		カナヘビ科	カナヘビ	●	●	目撃	目撃	目撃	目撃	主に耕作地や林縁部で成体を確認。
	3		ナミヘビ科	タカチホヘビ	●	●			死体	目撃	対象事業実施区域外の砂防堤で溺死体を確認し、対象事業実施区域内の低木林で成体を確認。
					ジムグリ	●	●	目撃		目撃	
	5			アオダイショウ	●	●	目撃	目撃	目撃	目撃	主に耕作地や林縁部で成体及び幼体を確認
	6			ヒバカリ	●	●	目撃、死体		目撃	目撃	主に耕作地周辺で確認。
	7			ヤマカガシ	●		目撃、死体		目撃 死体	死体	対象事業実施区域内の主に耕作地周辺で確認。
	8			クサリヘビ科	マムシ	●		死体			
両生類	1	カエル目	アマガエル科	アマガエル	●	●	目撃 鳴き声	目撃	鳴き声	目撃	主に耕作地周辺で確認
	2		ヒキガエル科	アズマヒキガエル	●	●		卵塊	目視 死体	目撃	卵塊及び幼体は、湿地環境の開放水面で確認し、周辺の湿地で成体を確認。
	3		アカガエル科	タゴガエル	●	●	目撃	目撃		目撃	対象事業実施区域南部を流れる沢周辺で確認。
				ヤマアカガエル	●	●	目撃	目撃 卵塊	目撃	目撃	主に水田及び湿地周辺で確認。
	5		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	●	●		鳴き声	目撃、卵塊、鳴き声	目撃 鳴き声	鳴き声は広範囲で確認され、卵塊及び幼生は水田周辺で確認。
	6			モリアオガエル	●				卵塊、死体		卵塊、死体ともに湿地環境で確認。
	7			カジカガエル		●				鳴き声	対象事業実施区域北東側の沢で1個体を確認。





